

平成 27 年度第 3 回宍粟市総合教育会議議事録（要旨）

1 開会及び閉会の日時及び場所

平成 27 年 11 月 16 日（月）午後 4 時 30 分～午後 5 時 29 分
宍粟市役所 402 会議室

2 会議に出席した者の職氏名

（構成員）市長 福元 晶三 教育長 西岡 章寿
教育委員 杉本 健三 弓削 ルリコ 田中 真人 金本 一二
（事務局）教育委員会事務局 教育部長 藤原 卓郎 教育部次長 椴谷 米男
学校教育課長 志水 良和 教育総務課長 澤田 志保
教育総務課副課長 橋本 徹
企画総務部地域創生課副課長 西川 晋也

3 開会

（教育総務課長）ただいまから第 3 回宍粟市総合教育会議が開会をされます。開会に先立ち、本日は市長部局から企画総務部地域創生課 西川副課長が出席をさせていただいておりますのでご報告いたします。それでは福元市長より開会にあたってのあいさつ、続いて議事進行をさせていただきます。

4 あいさつ

（市長）皆さん、こんにちわ。教育委員会に引き続いて第 3 回宍粟市総合教育会議を招集させていただきましたところ、ご出席いただきましてありがとうございます。もうすっかり秋本番になりまして、千種・波賀・一宮の北部ではもみじがきれいな状況で、だんだんと南下してくるのですが、今年、山崎のもみじ山は少し色合いが悪く、もう既に落葉している状況のようです。専門の先生に聞きますと、谷にあつて 10 月の 40 日余りの天気が続いた時に水分の補給がうまくできず、木が自分の生命を守るために葉を落とす柿と同じようなことだと聞きました。少し残念ではあるのですが、北部は非常に色鮮やかになっています。

さて、このあといろいろとご協議いただいたり、ご報告させていただくのですが、宍粟市も 10 年を迎え、次の 10 年に向けての総合計画のおおよその方向が定まり、本年 12 月議会で議決をいただく手筈を進めています。あわせて地域創生総合戦略として、向こう 5 年間にどのような具体的な取組をしていくかということも当然リンクするものであり、その素案も示しながら、いろいろとご意見をいただけたらありがたいと思っています。

また、現在、新年度予算について本格的に準備を進めていますが、今日を皮切りに教育行政に関して、こういうことはどうだろうなど含めて、ご意見を頂戴できたらと思っていますので、よろしくお願ひします。それではただいまより第 3 回宍粟市総合教育会議を開会します。

5 協議報告事項

(1) 宍粟市教育委員会事務事業（平成 26 年度実施事業）評価結果について

(市長) これより協議報告事項に入ります。宍粟市教育委員会事務事業(平成26年度実施事業)評価結果について事務局より説明します。

(教育総務課長) 説明させていただきます。お手元にお配りしています資料1をご覧ください。宍粟市教育委員会では、就学前教育・保育、学校教育、社会教育それぞれに「こども指針」「生き生きプラン」「社会教育振興計画」で構想・基本計画を策定し、その実施計画として年度ごとに『宍粟の教育』を策定しています。

本評価については地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、教育委員会自らが事務の管理や執行の状況の点検・評価を行うこととなったことから、宍粟市教育委員会においても平成20年度から点検・評価を行い、それぞれの分野で知見や学識を有する方による有識者会議を開き、担当部課による評価や課題と考えていることに対する意見・提言をいただき、評価を受けています。2ページは、今年度の有識者名簿になりますが、この7名の皆様から、26年度『宍粟の教育』の実施目標として掲げた項目について、意見・提言をいただき評価を受けました。

それでは26年度の実施事業についてシートで報告いたします。まず3・4ページは就学前教育・保育に関するものとなっています。就学前までのすべてのこどもの教育・保育の充実として、(1)発達の過程を見通した教育・保育過程の編成を掲げました。その成果指標として保護者アンケートを実施することとし、その結果、子どもの成長が感じられる、教育方針や子どもの生活等がよくわかるなど、幼稚園・保育所ともに95%以上の高い肯定度をいただきました。また、読書活動の推進や、民間保育所にも参加いただいて保幼小中パートナーシップ事業を全中学校区で取り組みました。また、保育者の質の向上として民間の方も含めて研修会に積極的に参加をし、また公立幼稚園・保育所だけにはありませんが、初めて外部による第三者評価も受けました。

様々な課題もありますが、今後も、保護者との信頼関係を基盤に、職員がやりがいを持って教育・保育に取り組んでいけるように、教育委員会としても一層の支援をしていきたいと考えています。また、地域の方にご協力をいただいている連携・交流、さらに民間も交えての異校種間の連携を進める中で、お互いの共通理解を深めていけるよう、継続してさらに計画的に行っていきたいと考えています。有識者からは、教育・保育の質の向上として教職員の研修の必要性について意見をいただく一方で、先生方が子ども達と関われる時間をより多く確保できるように、研修の実施方法については十分に検討してほしいという意見もいただいています。

次に学校教育ですが、5ページをご覧ください。宍粟を愛し、そして家族や他者に対する感謝の心を育むため、自然学校や中学生対象の出愛ふれ愛こども教室などを開催しました。また、ふるさと宍粟につながるキャリア教育の推進として、トライやるアクションや、ものづくり大学での体験学習なども実施し、生徒達はあらためて地域を見直すことができたと思っています。また、トライやる受入事業所からも大変良い評価をいただき、生徒達の励みにもなっています。また中1ギャップの解消のため、兵庫型教科担任制を取り入れています。今後も義務教育9年間を連続した教育体制の構築を一層進めていきたいと考えており、有識者からも一層進めてほしいとの意見もいただいています。

6ページでは学校現場の裁量拡充と支援体制の構築として、「しろう学校生き生きプロジェクト事業」を創設し、学校自身が提案し、それぞれ特徴ある取組をすることができたと思っ

います。今後も拡大していきたいと考えています。

次に7ページでは、健康教育の充実として、新体力テスト（しーたんチャレンジ）を実施しましたが、児童・生徒の体力や運動能力について、きめ細やかな実態把握をすることができ、また、運動の必要性への意識付けや啓発につながったと考えています。今年度も2年目として取組を進めているところです。

また、生活指導支援体制の確立では、児童生徒支援スーパーバイザーを配置し、教育相談の対応や、支援を必要とする子どもや保護者への適切な支援が一層進んだと考えています。また、いじめに対しては各学期にアンケートを実施し、今まで以上に早期発見・早期対応に努めてきました。

最後、社会教育では『つなぐ』を合言葉に生涯学習、人権教育、芸術・文化活動、生涯スポーツに取り組んできました。有識者からも市民への十分な周知の必要性があげられ、特に芸術・文化・スポーツの分野でそのような意見をいただきました。また、図書館の利用として、中・高校生が利用しやすいように勉強ができるようなスペースを作ったらどうか、高齢者大学については、高齢者自らが計画を立てたり準備したりするなど、より参加しやすい方法を考えてほしいなど様々な意見をいただきました。

以上、3つの教育分野に対していただいた有識者からの意見や提言を参考にしながら、また、今年度の取組の中で出てきた課題や保護者・地域からの声を大切に、次年度の取組に活かしていきたいと考えています。

以上、教育委員会の実施事業や取組について報告させていただきました。

（市長）教育委員各位は教育委員会でも協議をいただいていると思います。私の方から数点おたずねしたいと思います。

1点目、子ども達の体力向上について、先般、文部科学省等の報告にあったと思うのですが、体力全体は上がっているが、投げる、特にボールを投げるという点の低下が全国的にあるというものでした。26年度事業の中で特に低下したと感ずることはありましたか。

（学校教育課長）市内の分析結果からは、全体的に柔軟性に弱さが見られました。種目ごとで著しく低下しているものでも柔軟性でしたが、反対にボール投げ、特に女子のボール投げは全国と比べてかなり高い結果でした。一方で、全国的にもその傾向にありますが、大きな課題として、特に中学校女子の生活の中で運動する時間がほとんどゼロに近いものと、部活動で一生懸命にする者の二極化が進んでいることがあります。

（市長）宍粟市内の状況について、よくわかりました。次に2点目の質問として、いじめ対応についておたずねします。議会でも教育長が答弁され、26年度はいじめアンケートの実施率は100%の報告がありました。今年度はいじめ防止基本条例も制定しましたが、いじめ防止に関しての進捗状況を具体的に教えてください。

（学校教育課長）いじめ防止の具体的な取組として、今年度新たに取り組んでいることを報告させていただきます。まず1点目は、「しろう学校サポートチーム」の取組です。従来の適応教室、青少年育成センターの指導員と、新たに週1日の配置をいただいたスクールソーシャルワーカーが各学校をまわり、困っている事例についてかなり深く対応できています。保護者とも会っていただくなど深い関わりを持っていただいています。

2点目は、昨今、非常に問題になっていますネットトラブルを早く見つけるということで、

業者に委託してネットパトロールを実施しています。ネットパトロールの実績として、不適切な写真の掲載1例の報告がありましたが、それについては学校への早い情報提供とともに即座に指導も行えました。次に、いじめアンケートの件数ですが、26年度は学校から合計17件の報告がありました。今年度については、まだ2学期途中ですが、既に17件ほどの報告があがってきています。内容についてですが、新聞やテレビで報道されているような重篤な事例はありませんが、できるだけ早く発見して、早く指導する取組を進めています。

(市長) よくわかりました。いじめへの対応等、努力していただいておりますが、委員各位からご意見等がありましたらお願いします。

(弓削委員) 最近、無作為に小学生の保護者を対象にした統計で、学校に希望することを2つ掲げてほしいという質問に、1番が人間形成、2番が学力向上というものを見ました。学力向上を希望される保護者が最も多いだろうと思ったが、6対4ぐらいの比率で人間形成であったことに少し驚いています。人間形成の中にいじめなどの問題も含まれるのかとは思いますが、自分が考える人間形成の役割は家庭が大きな比率を占めると思っていたのですが、都会の保護者の回答も多いからこのような統計結果になったのかとも思うところですが、市内では保護者の要望など、どのような感じか教えてほしいと思います。

(学校教育課長) 最近感じるのは、宍粟においても大変困っておられる保護者さんがたくさんあるということです。特に発達段階で特別な支援を要する子どもさん等への支援なども昔に比べてかなり増えてきていると思います。その困っておられる原因・中身というのが、先ほどおっしゃっていた学力もありますが、それ以上に普段の生活、その中で人間関係の適応がうまくできない等があるのではないかと考えています。

(市長) いじめアンケートの件数が17件という報告でした。ありがたいことではあるのですが、近隣に比較して非常に少ないように思うのですが、それはどのように捉えたらいいですか。

(学校教育課長) 新聞等の報道でも、ある県では非常に多く、また、ある県では非常に少ないということが話題になっていましたが、宍粟においては、子どもがいじめられたと言った場合、困ったと言った場合はすべて報告するように学校に指導しています。もしかしたら、1~2日の短期間で簡単に解決したようなトラブルが、報告件数以外にあるのかもしれないとは思いますが、一応、学校からの全報告件数が17件ということです。

(教育長) 2年前にいじめ対応マニュアルを作成し、最低、毎学期1回のアンケートを実施することにしました。最初は子どもからの報告件数が少なかったのですが、毎学期、アンケートを実施し、アンケートに書いたら学校の先生がすぐに対応してくれることで、子ども達もアンケートに書いたら先生が助けてくれるというような信頼関係がかなりできていて、本当に小さなことも報告してくれるようになりました。先日の新聞では全国で12万件というような報道がありましたが、数が多いか少ないかは何とも言えませんが、市内の先生方は早く対応してくれていると思っています。

(市長) 頑張ってください、ありがたいと思います。今後も引き続きお願いします。

(市長) その他、ご意見はございますか。

《委員より意見なし》

(市長) 無いようですので、次の項目に入ります。

(2) 第2次宍粟市総合計画・地域創生総合戦略（案）について

（市長）第2次宍粟市総合計画・地域創生総合戦略（案）についてに入ります。冒頭でも申し上げましたが、合併して10年が経過し、次期10年の宍粟市の進むべき道筋をたてるものが総合計画になります。あわせて国も言っておりますが、総合計画にリンクした形で、5年間の地域創生のより具体的な取組計画を示すものが地域創生総合戦略になります。いずれも12月に策定を終了し、次年度から実行したいと思っています。

中でも、特に今日的な課題であります「人口減少対策」が最重要課題であり、雇用や子育て等の環境が求められており、さらに教育施策の充実によって生活環境を含めた基盤をさらに高めていくということになると思います。本日、良い機会ですので、企画総務部より概略を説明させていただきたいと思います。

（地域創生課副課長）地域創生総合戦略の策定の現在の進捗状況とあわせて、資料2「宍粟市地域創生総合戦略（案）における定住促進重点戦略体系」の概要版での説明と、市長が申しました宍粟市の最重要課題に向けた対策について説明させていただきます。

まず進捗状況です。有識者10名の委員により地域創生総合戦略委員会を設置し、本年4月30日に第1回委員会を開催以降、この間、4回の会議を開き、明日11月17日に第5回の委員会が開催され、明日の会議で概ね本日お示ししています戦略案で審議が終了する見込みです。その後、12月上旬の戦略策定という運びになる予定です。

次に宍粟市としてどのように人口減少対策を進めていくかということですが、4つの柱を掲げて人口減少対策に取り組んでいきたいと考えています。1点目「住む」集落・地域の活性化と宍粟市への移住支援ということで、集落・地域がより活性化することで魅力ある町を創りあげていくという点を掲げています。

そして、2点目「働く」雇用の創出と就職支援ということで、何よりも雇用の創出が重要であり、今現在は高校を卒業された生徒さんは大学が無いということで、いったん宍粟市を離れられておりますが、そういった方々が大学卒業後に宍粟市に帰ってこられるかということ、大方は大学所在地の近隣で就職をされており、宍粟市に帰ってこられないのが現状で、まさにこの点が人口減少の大きな一つの要因であり、雇用を創出することが人口減少対策であることから掲げています。

次に3点目「産み育てる」少子化対策ということで、雇用の創出はもちろんですが、結婚、妊娠、出産、育児という風に切れ目ない支援が大切になってきます。この点についても定住重点戦略の大きな一つになると思っています。

最後、4点目「まちの魅力」選ばれるまちづくりを推進していくということですが、宍粟市に移住、定住を図っていくプロセス（過程）の中で、まず市外の多くの皆さんに宍粟市の魅力を知っていただくということが一つあると思っています。そして、もちろん宍粟市在住の方々にも宍粟市の魅力をより発信していくことが、宍粟市に定住、移住していただくことにつながると考えており、まず宍粟市の魅力を知っていただくことを掲げています。以上、4つの柱を戦略的に取り組むことで、宍粟市の総合戦略としていきたいとそうように思っています。

それでは宍粟市の人口をどう掲げていくかということですが、今、宍粟市の住民基本台帳人口は4万人ですが、本年は国勢調査の実施年で、この12月に概略の人口集計ができる見込みですが、おそらく3万8千人程度になるものと思われませんが、45年後、2060年の宍粟市の人

口3万3千人をめざし、人口減少に何とか歯止めをかけながら、緩やかなカーブをたどっていきたいと思っています。その3万3千人をめざす中、4つの柱を中心に取り組んでいきたいということが、地域創生総合戦略の大きな中身になっています。

最後に、宍粟市は9割が森林であり、戦略を掲げるなか、あるものをいかに活用し、そして、あるものとあるものをかけ合わせながら人口減少対策が必要ではないかということで、宍粟市の地域資源である森林を戦略のテーマに掲げ、その森林をいかに活用していくかということも大きな命題になってくると考えています。森林セラピーもまさにその取組であります。大きな恵みをいただきながら、森林をテーマに戦略を掲げていきたいと考えております。宍粟市地域創生総合戦略の概略説明は以上です。

(市長) 概略説明でしたので、詳細は後刻、ゆっくり見ていただけたらと思いますが、戦略の柱をたてるにあたり、人口をどの程度に想定しながら、これからどういう町を創るかということは大事な要素であり、現在の人口は4万人ですが、前にお話もさせていただきましたが、このままいくと人口2万人を切る恐れがあり、それでは町を創っていくのはなかなか厳しい状況です。国もその時点の人口1億人で歯止めをかけたいとしており、今回、各自治体が戦略を提案する中で人口想定をしています。宍粟市は国の予想は3万人となっていますが、それではなおかつ非常に厳しいということを含めて3万3千人の目標をたててそれぞれ進めていくことにしています。

資料2で^新として新たな取組を掲げています中から少し具体を紹介させていただきます。集落・地域の活性化の中の「地域おこし協力隊の受け入れ」ですが、国の事業になります。3年間、都市の青年等を受け入れて、地域と一緒にあって活力を求めていこうとするものですが、今現在森林セラピーで2人、国見の森で宍粟市全体の観光ビジョンをたててもらうために1人の計3人の方に来ていただいています。外部の若者が3年間そこに定住し、企業として成り立たないかなど、この3年の間にどんどん考えていきたいと思っています。また教育関係で何か良い仕掛けができるようなことがあれば、協力隊としてできることがないか、事務局でも考えていただけたらいいなと思っています。

次に「市内路線バスのネットワーク化による利便性の向上」として路線バスについてですが、来年4月からの施行予定を前倒して11月2日から実施していますが、いろいろ試行錯誤する中で、この半年間に様々な課題も見つかると思いますので修正しながらやっていきたいと思っています。先般、中学生の保護者から話を伺う中で、部活動の時に先生方が送迎をいただいているが、危険を伴ったり、有事の時には大変な状況になるので、路線バスに乗れる方法はないかというものでした。路線バスを使って市内での練習試合に行けるようなことも事務局として提案いただけたらありがたいし、それを広めていけるようなことも考えていただけたらと思います。土曜日・日曜日は幹線しか運行していませんが、練習試合は土日だと思うので何とか考えてもらえないかと思っています。また委員各位からもご意見をいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

次に、移住希望者の受け入れ促進に向けた体制の構築の中のCCRC構想による移住の促進ということで、東京一極集中で、東京の高齢者を地方で受け入れということで、東京の介護施設もいっぱい全国にばらまきたいという国の思いがあるようです。本日、市長会がありその中で話も出たのですが、東京で働いておられた方を地方でということに意見もあるところですが、

そうは言えない状況が現実起きており、こうゆう時代であるがゆえに各自治体で調査・研究し、高齢者を受け入れる施設なども含めながら受け入れが可能なのか、また介護保険制度とどうリンクしていくのかなど、調査・研究・検討していこうというものです。先日、川戸に恩徳福祉会によって特別養護老人ホーム《しその杜》が設置されました。60床のホームで、ショートステイ20床、デイサービス50人定員の施設で12月1日からオープンしますが大変立派な施設です。ある意味、これからの宍粟市の立ち位置も、もしかするとCCRCという東京や大都市圏の高齢者を受けるといことの一つに、この豊かな自然の中で考えていけないといけないということもあるのかなとも思っており、参考に状況をお知らせさせていただきました。

また、この戦略の全体の中で、特にこの豊かな自然の森林（もり）をキーワードにし、産業や教育などの中でアクションを起こしていくということを掲げておりますことも先ほど申し上げたとおりです。これから戦略を実行する中で、もう既に実行しているものもありますが、そういう形で頑張っていきたいと思っています。雑駁な説明になりましたが、委員各位からご意見がありましたらお願いします。

（杉本委員）我々は教育を考えている立場であり、教育は明日すぐに、また3年でなど目に見えてすぐに結論が出るものではないですが、宍粟市教育委員会で策定した「生き生きプラン」の中でも宍粟を愛する子どもを育てていくことを掲げており、それを突き詰めることが、市の総合戦略にある定住促進、あるいは人口減少を少しでも食い止めることにも、長い目で見るとつながるものと感じています。先日、母校の山崎小学校・山崎中学校の同級生で同窓会をしたのですが、泊まった翌日に街並みを歩いた際、遠くから帰ってきた者が涙を流さんばかりに懐かしいと話していました。今、自分たちが小学生だった時のことを思い出すと、例えば紙屋門が校門だということはわかりますが、その門の歴史であったり、また歌の中にあった篠ノ丸城が一本松であるとは夢にも思わず、誰も教えてくれなかったなと思います。もっと早く、子どもの時に郷土のことをしっかりと覚えて、そんなことを胸の奥に秘めていたら、一旦は都会（まち）に出たとしても郷里・郷土の宍粟のことをいつまでも熱い気持ちで持っている、そして機会があれば戻りたい、あるいは最初から学校を出たらすぐに地元でやりたい、こういった子どもを育成していくことが、教育委員会に、あるいは先生方に課せられた大きな大きなものではないかと、あらためて感じたところです。

（市長）ありがとうございます。

（田中委員）人口減少の中で、実際に宍粟に住んでいる若者と話す機会もあるのですが、その中で実際に宍粟に住んでいる若者である自分たちにとっての良いことがあまりなく、高齢者には優しい町だが、自分たちには何かないのかな、住んでいて、例えば家を購入したり借りる時に安くなる、あるいは車を購入する時に安くなるなどがないのかなというような話を聞くことがあります。今はSNSなどで情報発信が非常にできる時代であり、宍粟に住んでいる者が同級生に対して住んでいてこんな良いことがあるといった情報発信をできるような、そういう仕組みづくりができないかなと感じながら、良いことはいろいろと書かれています、20代の子たちにとって良いこととは何かということがあったら教えてほしいと思います。

（地域創生課副課長）ご指摘のとおり、若者に対して、行政が今こんなことをやっているという情報が非常に少ないとは思っています。やはりそこにかにメッセージを伝えるかが重要なことだと思っています。おっしゃるとおり、宍粟市の魅力をどのように伝えていくか、大学を

終えて宍粟に帰ってもらうということがポイントにもなりますので、今いただいた意見を、この戦略を具現化する際に、よりそこにスポットをあててやっていく必要があると思いますし、まさに今その具現化に向けて取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

(市長) 最近、若者と話す機会の中で、遊ぶ所がないという話を聞きました、夢公園で多くの若者がスケートボードをしているのですが、自分たちがそこでやっていたら大きな音がするので大勢から怒られたりするのです、自分たち子どもが遊べる場所ができないかという話でした。そういうことも一つだと思いますし、また同じ若者でも一宮・波賀・千種の北部の若者は結婚してしばらくは山崎で住みたいという人が多く、山崎で建っているアパートやマンションにはほとんどそういう人が入居され、その家賃は5~6万円程度必要で、その家賃補助をしてもらえないかという人もいます。先日、経営者協会の会議に伺った際に、市や県は家賃の半額補助制度もありますが、市内の企業で家賃補助をしているところがほとんどなく、市内企業でも人材不足や人材がないという話もされており、経営者協会でも一度考えてほしいという話をさせていただきました。何かの突破口がないかと思っていますので、何かありましたら教えていただければと思います。

(弓削委員) ここ2年、成人式を拝見していて感じるがありました。成人式は若者が集まる最高の良いアピールの場所だと思いますが、来年もオープニングは和太鼓と報告をいただいています、最近の若者はあいさつなどを聴く耳をあまり持たないとか、そういうことに慣れていないとか、心に響くアピールの仕方、例えば寸劇とか、先ほど今井農園での取組を教えてくださいましたが、そういう活躍されている方の発表とか、宍粟は良いよという教育委員会の人による寸劇とか、何かおもしろいものを、口頭での話を聴くというのではなく、目と心に響くようなことを考えていただけないかなと、成人式の時にそう思っていました。以前どこかでおばさん達が寸劇をされていましたが、下手な劇であってもみんな見ていましたし、教育長中心にでもしてもらったらと思ったりします。

(教育長) 私が教育長になって2度ありましたが、ここ2年間は穏やかな成人式でしたが、その前はなかなか厳しいもので、そういう場合では無かったということも聞いていますが、いただいたご意見を今後の参考にさせていただきたいと思います。

(弓削委員) アピールする絶好の機会ですので、積極的に活用いただけたらいつも感じておりましたので、是非ご検討いただきたいと思います。

(市長) 式典があいさつ中心のものになっていますが、あいさつごとがいるかどうかということもあると思います。女性は多くが和装ですが、例えばお茶席を開いていただいて、入ったらお茶をよばれてなど、そういう何かをするということだと思うので、来年はもう計画ができています、今後に向けて事務局で検討してほしいと思います。その他、また委員各位でお気づきのことがありましたら教えていただきたいと思います。それでは次の項目に入らせていただきたいと思います。

(3) 教育に関する重要施策について

(市長) 教育に関する重要施策についてということで、いよいよ新年度予算に向けて、これから教育委員会で委員各位の意見をいただきながら事務局で集約していくことになると思いますが、最初に教育長あるいは事務局から現在の課題あるいは取組状況について説明してくださ

い。

(教育長) 25 年度に要望し、26 年度から配置いただきました児童支援スーパーバイザーの取組について報告します。宍粟市の特別支援教育が大変充実してきておりますが、その中から総合サポート事業について概要を報告します。これについては4つの大きな柱を組み立て、それに沿って取組を進めています。まず1点目、各学校園所の支援体制をしっかり整備しようということで、サポートファイル、さらには個別の指導計画を作って、これを活用しながら子ども達を上へ上へとあげていこうという中で、特に引継方法を統一して宍粟モデルとして整備し、子ども達が安心して次の学年へ、小学校から中学校へ、さらには高校へという体制をとっているところです。さらには、各学校にいる特別支援コーディネーターの力量を高めるために専門の先生をお呼びしてネットワーク会議を開く、さらに市内の特別な支援を必要とする子ども達に支援員13人を配置いただき、また肢体不自由児1人に対して小学校で介助員も配置していただき、学校の支援体制を整備しています。

次に2点目として、正しいアセスメントに基づく子どもの理解ということで、スーパーバイザーの26年度の活動内容を報告します。保健師、また保護者や学校園所との教育相談が延べ25回、さらに就学後に児童・生徒のアセスメントの必要が発生した場合に、保護者の同意を得て発達検査を行った方が21人ありました。そういう状況です。

3点目、教職員の力量を高める研修として、26年度はスーパーバイザーが講師を努めて開催したケース会議件数が31回ありました。さらに子どもや関係職員、保護者からの相談が延べ198回を数え、スーパーバイザーは大変忙しく動いていますが、要望・要求が多くなっています。

最後4点目ですが、子ども・保護者・教職員に対する心の支援として、学校に来るのに適応に困難を感じている児童・生徒のカウンセリングと、保護者さらには教職員を対象にしたカウンセリング等を育成センターを中心に延べ62回行っています。27年度については26年度を上回る需要があり、学校教育、育成センター、適応教室、そして今年配置いただいたスクールソーシャルワーカーと共通理解しながら取組を進めているところです。この後、課長からも報告します。

(学校教育課長) 学校現場でのICT機器の活用について報告させていただきます。本年9月27日に神戸新聞でも紹介されたのですが、実験的な取組として総務省が行っている学校現場での情報通信技術活用に向けてのモデル研究ということで、神戸新聞社が総務省のメニューに手をあげられ、今年、その提案が採用されたということで、それに基づいて県内で2校、特にNIE(教育に新聞を)の活動を一生懸命に取り組んでいる都多小学校が2校のうちの1校に選ばれ、この秋からずっと研究を進めていただいています。詳細日程は後日お知らせしたいと思います。12月中に何回かモデル授業もされますので、事務局も見に行く予定です。事前に1度、見に行った際には、子ども達がいきいきと授業をしている様子を見て、何よりも非常にわかりやすいということで、授業がおもしろい、やる気が出るというようなことも子ども達から聞きました。そこで今後、来年度に向けて学校現場にわかりやすい授業を提供する道具として、環境整備としてできたらなと考えているところです。特にタブレット等を先生が使いこなして、わかりやすい授業ができるような環境整備をしたいなということを考えている所です。以上です。

(市長) 教育長、また課長から説明がありましたが、今後の教育施策について、教育委員各位

からご意見等をいただきたいと思います。

(杉本委員) 今、教育長、課長から話されたことはとても重要なことです。しっかりと頑張っていきたいと思います。とりわけ教職員の力量のアップということで、教える技術も大事ですが、もっと突き詰めれば使命感、教師としての使命感をより確固たるものにすべく教員を育てていくのが教育委員会、あるいは学校管理職の大事な仕事だと思います。私自身、自分のことを振り返ってみれば、転勤によって別の世界に放り込まれることで、大変なことだ、これまでと具合が違うななど感じて、やらざるを得ない状況になること、あるいは研修に行つて、これまで自分がやってきたことと違う世界を突きつけられるなど、そういった環境の変化や刺激、さらには卒業生の姿を見て、自分がこんな大事な仕事をしているのだというような、力量アップイコール使命感をしっかりと身につけさせるような各学校で校長先生、教頭先生の管理職が教員を育てるという意識を持った学校経営を行うことが大事だと思いますし、それは教育委員会も全く同様だと思います。積極的に先生方にもそういう機会を与えて力をつけていってもらうということが大事だなとあらためて感じました。

(市長) ありがとうございます。

(金本委員) この機会におたずねします。こども園の方向がだいたい定まっていると思いますが、市として私立のこども園が一番望ましいという根本的な理由が、私自身もわかっているようでわかっていない部分があります。なぜ私立なのかと聞かれた時に、千種で協議をしている際に担当課長が公でできることは公で、私立(民間)でできることは私立(民間)でやってほしいという答弁をされていましたが、市としての方針などもあることから進めてきました。今後進めていくうえで、教育委員会としても理解をしておかないといろいろな支障があるなと思っています。それと、先月、京都での教育委員の研修の中で、箕面市教育委員会の事例発表がありました。箕面市では私立のこども園が3箇所あるそうです。その箕面市の教育委員は公募で選ばれ、教育長と委員長が男性で、あとの4名は公募で選ばれた保護者の女性ということで、その保護者委員が主体的に週1回程度集まって協議をされたりして進めているというような報告もありました。そういう保護者がたくさんおられるという市で私立のこども園ができてきているということは、何かそこに魅力があるのかな、また理解していただく何かがあるのかなと思ったりして、そういう所へ誰か視察に行かせてもらうなどもどうかなと思ったりしました。その2点を思いました。

(市長) ありがとうございます。こども園の方向は前々から議論いただいておりますが、宍粟市としてはできるだけ社会福祉法人等にお世話になりたいと思っておりますが、また教育委員会の中で、なぜ、どういう方向を向いているかということの勉強会等をしていただけたらと思っておりますが、市としても教育委員会でもご議論いただいて子ども達が少なくなる中で、一定そういう方向性を平成21年度に出していただきましたが、それを踏襲する中で、少し加えながら、また時代にマッチするようなことも考えてきていますが、方向性はそのままに向いておりますので、その理由等については、また事務局からあらためて説明する機会を作ってもらいたいと思います。他にご意見はございますか。

《委員より意見なし》

(市長) 無いようですので、これで意見交換を終わりますが、これから新年度予算編成を本格的に進めていきます。教育委員各位には教育委員会で議論もいただき、事務局で精査もいただ

いて、そして事務局から報告を受けたことを踏まえながら予算編成に向かっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。皆様には大変熱心にご協議をいただきまして、ありがとうございました。

6 その他

(市長) 次回会議は、あらためて招集させていただきますので、よろしく申し上げます。

7 閉会

(市長) 以上で第3回宍粟市総合教育会議を閉会します。西岡教育長より閉会のあいさつをお願いします。

(教育長) 委員各位には教育委員会に続いての総合教育会議ということで、長時間いろいろ議論いただいてありがとうございました。市長にも忙しい中、時間を作っていただいて総合教育会議を開いていただいてありがとうございました。今後、今いただきましたご意見を参考にさせていただいて、より良い教育委員会、また総合教育会議としての意見が出せていけたらと思っていますので、よろしくお願い申し上げ閉会とさせていただきます。ありがとうございました。